

大学生・大学院生と英語力

大学生・大学院生を念頭に、英語の能力を上昇させるための方法を、学者としての個人的な経験をもとに書いてみました。英語教育のプロの視点ではありませんので、その点に注意して参考にしてください。

日本語と英語の二か国語を高い水準で使いこなせることは、大学・大学院を卒業した後にどのような業種に入るにせよ、そこでいい仕事をするために必須の能力になっています。皆さんは、日本語は母国語としての力を持っており、英語については、高校までの教育と受験英語が作った確実な土台を持っているので、高等教育を受けた人間にふさわしい日本語・英語の力を身に付けることは、さほど難しいことではありません。必要なのは、大学・大学院に在学中に、適切な訓練を続けることです。

言語の能力は、聞く・話す・読む・書くの四つに分けることができますが、このうち、聞く・話す能力については、私は、BBC のラジオ番組に助けられました。ラジオ番組を聴きながら、ほぼ同時に口に出してみることを毎晩練習しました。このような方法を「シャドウイング」といいます。最近では Podcast が充実しているので、ダウンロードして通勤やランニングの時に聴いてシャドウイングしています。BBC の Podcast の一覧は以下のサイトに掲げられています。

<http://www.bbc.co.uk/podcasts>

多様な番組がありますので、自分の好みに合った番組を聴くといいでしょう。私自身は、充実したニュース番組の World Tonight, 世界各地の BBC 特派員の報告を集めた From our own correspondents, そして、ある主題について 3 人の学者に議論させる In our time をよく聴いています。

読む・書く能力のうち、読むほうについては、受験英語のおかげなのか、比較的高いという印象を持っています。しかし、英和辞典への依存度が高く、もっと英英辞典を使う学生が増えればいいと私は思っています。

多くの人にとって最も高いハードルになるのが、よい英語を書く能力だと思います。よい英語を書く能力は、単に「英語がうまい」ということではなく、母国語ではない言語で明晰に考えて、それをエレガントに表現する能力ですから、大学の高等教育に最も馴染みやすい部分だと私は考えています。その意味でのよい英語を書くためには、よいツールを使って、練習を繰り返すことです。私が使っているツールは類義語辞典 (thesaurus)、連用辞典 (collocation)、文章読本の三種類に分けることができます。

類義語辞典は、英語では非常によく使われるレファレンスです。日本語では、官僚の文章でも学者の文章でも、同じ語を繰り返すことを好みますが、英語では、同じ語が繰り返し出てくるこ

とを避ける傾向があります。そのため、ある語の類義語を使うことがしばしば必要になります。書名でいうと、Oxford Paperback Thesaurus を使っています。これは、普通の辞書のよ
うに A to Z で見出し語が並び、その語の類義語が掲げられているものです。Roget's
Thesaurus は、19 世紀初頭に出版されて近代的な類義語辞典のはじめになったのですが、
これは、ある分野が見出しになっていて、それに関連する語が並んでいるという形式になってい
て、私は使ったことがありませんし、どう使うのかも理解していません。

連用辞典も、英語でよく使われます。ある語が、どのような動詞、名詞、形容詞と連用して使
われるかを示す辞書です。たとえば、「人口の大きさが問題である」という文章を英訳したいと
しましょう。その時に、The ___ of population matters. という英文の空白箇所にあたる
単語がほしいと思って、和英辞典で「大きさ」を引くと、magnitude という語が出てきたか
ら、それを入れて、The magnitude of the population matters. となります。この文
章は、たしかに意味は通りますが、不自然な感じを与えます。このようなときには、和英辞典
よりも連用辞典を用いるべきで population を引くと、size という語とともに用いられる
ことがわかります。和英辞典よりも連用辞典を用いたほうが確実に自然な英語の文章を書くこ
とができます。

文体についてのガイドは、日本語の「文章読本」にあたるものです。明晰さと美しさの双方を
表現する訓練をするには、英語の文章読本を一冊手元に持っておくべきです。私自身は、Joseph
M. Williams, *Style: Toward Clarity and Grace* を愛用しています。ただ、この書物
は、近年、構成を大きく変えて Basics と Lessons からなる二巻本になっただけで、新しい
構成のものは未見です。Gordon Taylor, *The Student's Writing Guide for the Arts
and Social Sciences* (Cambridge University Press) も高い評価を聞いたことがあ
りますが、私自身は未見です。

日本語の文章読本について付言すると、文学系、理科系、社会科学系など色々なタイプのもの
が百花繚乱ですが、各自が自分の好みにあったものを選んで、それを使い込むことで身に付ける
ことがいいでしょう。本多勝一『日本語の作文技術』、澤田昭夫『論文の書き方』、木下是雄『理
科系の作文技術』などが、評価が定まった良書です。私自身にとって一番有益な文章読本は、谷
崎潤一郎『文章読本』と三島由紀夫『文章読本』、特に後者ですが、これは学者にしてはやや特
異な選好ですので、この二冊を参考にして最初のレポートを書き始めることは勧めません。

以上、個人的な経験をもとにして、英語教育者ではない学者が書いた英語の習得法を記しまし
た。みなさんの何らかの参考になれば。